

酒田市総合計画審議会 第3回産業交流部会 議事要旨

1. 日時

平成29年7月20日（木）10:00～11:45

2. 場所

酒田市役所第二委員会室

3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 産業部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田商工会議副会頭	吉川 哲央	部会長
酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克	
酒田市袖浦農業協同組合代表理事組合長	五十嵐 良弥	
連合山形酒田飽海地域協議会事務局長	阿部 秀徳	
きらきらネットワーク倶楽部会長	村上 淳子	

【事務局】

農林水産部長、水産林政調整監、商工観光部長、総務部長、市政推進調整監、建設部長、上下水道部長、上下水道技監、企画振興部長、政策推進課長、政策推進課

4. 議事内容

【事務局より会議の成立について報告】

- ・本日の出席委員は5人であり委員定数9人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条の規定により、本日の会議は有効である。

【事務局より説明】

(1) 今後のスケジュールの確認

- ・資料1に沿って事務局より説明

(2) 基本計画の第一次原案について

- ・資料2～4に沿って事務局より説明

【委員からの質疑・意見等概要】

(委員) 2-1で、農商工連携も含めた多角的かつワンストップで対応できる組織を今年

度中に設置し、商工会議所、商工会等と連携しながら総合的に産業振興を図るということだが、農協、漁協、商工会議所でも色々な模索をしている中で、この組織はどのようなものを考えているのか。

2-3について、雇用創造協議会とリンクするものが多い。雇用創造協議会では1億円近い予算がある中で国庫に返還している状況があり、計画の段階から、地元で働くことのできるまち、移住・定住ができるまちに向けて、戦略性、有効性、実効性がある施策の組み立てをお願いしたい。

⇒ 今までは農商工連携に結び付くような対応ができなかったということで、農業関係も含めて相談できる窓口を一本化し、商工会議所、商工会、金融機関等と連携しながら、本年度中に組織を立ち上げたいと考えている。

雇用創造協議会については、国の委託事業で3年間の予算をとっている。予算が余ったからといって自由に使えるわけではなく、余った予算を別の使途に使うことが全くできないため返還に至っているということを御理解いただきたい。

(委員) せっかく原資があるので、もう少し雇用や働く場の創出、UIJターンの促進に向けて、戦略性をもって有効に事業を行ってほしい。

⇒ 例えば、セミナーの回数を計画以上に増やしたいと国に要望しても、国からは計画の回数だけ実施するよという指導が入るため、返還に至っていることを御理解いただきたい。

(委員) 6-3について、市民生活部会からは何か意見が出されたか。

⇒ 6-3については、市民生活部会からの意見は特になかった。

(委員) 6-1について、コンパクト・プラス・ネットワークによる持続性の高いまちづくりという記載があるが、現状を見ると色々な時代の変化・環境の変化があり、市も変わらないといけないという中で、今後どうしていくのか。歳入の減少、給水収益の減少という中で、まちの魅力を上げるためにコンパクトシティを目指すということをもう少し取り上げ、コンパクトシティや中心市街地への資源の投入を高めるべき。駅前開発や産業会館、山居倉庫から港までの間の川の整備等をもっとすれば観光客が増える。コンパクトにしないと中心市街地といっても投入資源は減るのではないかと思う。

水道事業も、市民全体に行き渡るサービスということはもちろんだが、曲がり角を迎えているという気がしている。

(委員) 2-3について、働く女性の活躍を促進するということだが、女性がいかに安心して働けるかが大きなテーマ。ところが、残念ながら連合への労働相談の多くはハラスメントで、マタニティハラスメントが非常に多い。この地域もそうである。子育てをしながら働くことに対する理解がまだまだ足りない。女性を大切な労働者として扱っていくべき。妊娠して産休・育休をとればやっかい者という扱いをされるのは非常に残念。酒田市は働く女性を大切にすまちなだということをアピールできればよいのではない

か。

6-1の公共交通の記載について、コンパクトシティの考え方は非常に正しいことで、今ある資源を有効に活用し、人が住み続けられる持続性のある社会をつくることは大切なこと。それを実現するにあたって、酒田市に足りないことは1次交通が脆弱であること、それを支える2次交通の体系がバラバラであること。これから駅前再開発が進み、山形新幹線庄内延伸を進めていくのであれば、2次交通の体系づくりについて市としての考え方をもう少しアピールした方がよい。庄内空港については、空港を降りたらどうしようと思っている人が多いのではないかと思うので、2次交通との関連性が重要になってくる。

⇒ 働く女性の活躍については、まち・ひと・しごと創生総合戦略でも、人口減少する中で、労働力を確保する上でも女性活躍を推進することは非常に大切だと認識しており、総合計画にもしっかりと盛り込んでいきたいと考えている。今年度の事業として、女性活躍を進めていくための庁内のプロジェクトを立ち上げ、外部の方も入っていただきながら組織を立ち上げたところで、これからPRしていく。最終的には男女共同参画につながっていくが、そのような考え方も総合計画に盛り込んでいきたい。マタニティハラスメントについては、職場の理解が進むように取り組みを進めていきたい。

(委員) 事業所内の保育施設は、深夜勤務が必要な事業所には必要であるというのは事実であり、対策ができればよい。進出企業への支援策としても有効である。

⇒ 日本海総合病院の院内に保育施設がある。また、進出企業の中にも事業所内の保育所があるところがある。事業所内の保育所の整備については取り組んでいきたいと考えている。

庄内空港の2次交通については、中型機の導入により乗りやすくなったこともあり、レンタカー利用が増えている。レンタカーについては市で駐車場を整備し取り組んでいるが、他の空港と比べて、空港を降りてすぐのところにカウンターがないなどの問題があり、既に空港側と打ち合せを行っている。酒田駅周辺については、再開発事業でできる場所に、るんるんバスと庄内交通のバスを一本化しようということ動いている。

(委員) 農業は問題だらけ。1年に就農する人が20人に満たないということで、産地として成り立つのか不安。また、園芸の産出額が非常に少なく、これでは儲からない。どのように園芸振興していくか。

農家からは、昨年までは雇用を頼むと2人位は来てくれていたが今年は来てくれる人がいなくなり、事業を縮小しなければならなくなった、アルバイトが辞めてしまい収穫が間に合わないという声が出てきている。農業を手伝ってくれる人がいなくなり、農業生産量が落ち、どうしようもない状況になっている。水田農業は機械化ができていますが、園芸は人手。市でも雇用の問題に取り組んでほしい。

米に使う予算は大きいですが、もう少し園芸に力を入れてほしい。酒田市の園芸作物で、

メロンに続くブランドは何かあるか。花きについては、まだまだ未開発のものがあり面白いものがあればブランド化していきたい。もしかしたら日本一の産地になるかもしれない。こういう新たな部分をもっと支援すべき。今までどおりのことをやっていたのでは全然だめなので、新しい芽を応援する体制を作してほしい。

(委員) 2-4の今後の方向性と主な施策に記載している内容ではだめということか。

(委員) 雇用についての記載が不足している。働いてくれる人を色々なチャンネルを使って確保したい。仕事がきついのである程度若い人でないとだめだが、時間給1,000円でやっと来てくれる状況。しかし、生産現場からすると、あまり経費をかけられないのが現実。

⇒ 思いは同じで、生産現場の担い手、就農者の確保が一番大きな課題と認識している。これまでシルバー人材センター等のチャンネルを使いながら農家が臨時的な雇用を募集し対応してきているが、シルバー人材センター等でもなかなか人が集まらない状況。若い人も常時雇用を求めており、雇い主の思いとのミスマッチが出てきている。職業の多様化もあり、雇用を確保するのは難しくなっているが、年間雇用も取り入れながら進めていく必要があると思っている。

園芸振興については、酒田の農業は水稻中心の農業形態が主力になっており、米価の変動に産出額が大きく左右されている実態にある。米価が下がったとしても、園芸を取り入れた複合で安定的な経営を目指していくことが求められている。園芸に力を入れるために、今年度から新たな取り組みにチャレンジする若い人を支援するさかた農産物ブランド化チャレンジ支援事業を創設しているの、今後とも拡大しながら取り組んでいきたい。水田地帯においても大規模な園芸団地化を目指す必要が出てきているのではないかと考えており、そのような視点も記載している。

(委員) 女性農業者も高齢になってきており、次のステップを踏むような状態にない。6次産業化についても、農業が儲からない中で6次産業を進めるということは、場所の整備にお金がかかるし、補助金をもらっても返済が大変。個人で取り組むことは限られるし、自分たちの仕事は農業なので、生産物を作らないと6次産業にも取り組めない。6次産業を進めるには集落営農組織で取り組むのが適している。冬期間の農産物の少ない時期に6次産業に取り組むことは可能だと思う。

農家にとっては、農商工連携が一番の近道だと思う。農商工連携もそれぞれの団体に話しかけていくことが必要。商業、工業のプロがアイデアを出しながらこういう作物を作ってくださいという提案をいただき、農家は売れるものを作りたいというのが本音。コーディネーターがいれば農家も安心して生産できる。農家収入が少ない中で個人に加工場を作ることを求める時代ではなくなってきている。生産に携わるプロ、加工するプロ、工業的なプロを集めて、酒田市の加工品を外に出してほしい。

⇒ 農業者が生産、加工、流通、販売までやるのが酒田の農業のスタイルに合ったものかどうかは内部でも議論している。農業者は生産についてはプロだが、2次、3次産業的なところは素人。全国的にも6次産業化で成功している事例はあ

るが、失敗している事例はそれ以上に多い。製造、販売のノウハウが得られていないということで、成功に結び付いていない。

その中で、産業振興まちづくり支援センター（仮称）を設置し、農業者と商業者、工業者を結び付けていく機能を持たせ、新たな商品開発を目指している。酒田の6次産業化の新たなスタイルとして、センターを活用して、農業は商業・工業が求めている原材料を供給し、商業・工業は地場産の農作物を使って新たな商品開発をして酒田ブランドとして発信していく取り組みを支援していきたい。これから交流人口が増加する中で、観光客はお土産として生鮮食品より菓子類、加工品を買っていくが、その商品開発が遅れているのが現状。センターを活用し新たな商品を発信し、酒田の魅力を高めていくことを目指している。

（委員）2-2の成果指標について、取扱貨物量はH28に減少、コンテナ取扱個数についてもいまひとつの伸びをしている、庄内空港有償貨物取扱量もH28は減少している現状があり、成果指標はこれでよいか。

3-3の市民ができることの中で、庄内空港の積極的な利用とっているが、今の運賃では市民に積極的に使えということは無理。違う航空会社を入れるなど取り組むべき。

⇒ 2-2の成果指標については、取扱貨物については、今後バイオマス発電所ができるのでその燃料輸入を見込んでいるもの。コンテナ取扱個数については、紙おむつの生産設備増強による増加分を見込んでいる。庄内空港有償貨物取扱量については、コンテナを積載できる中型機が一時なくなったために減少している。ヤマト運輸、ANA総合研究所、県との連携協定により、沖縄便を經由した貨物の輸出も始まっているので、期待を込めて1,000トンに設定している。

（委員）目標をもう少し引き上げて良いのではないか。貨物の取扱量が伸びるような施策が必要ではないか。指標は何年後を目指しているのか。

⇒ スタートしてから5年後。また、庄内空港の利用については、ここには記載していないがLCCを導入しないと運賃が下がらないと考えている。今積極的に動いているが、現在のところ実現していない。現行の運賃についても交渉している。

（委員）現状で4万円の運賃のところを2万円の運賃で乗れる航空会社を引っ張ってくる必要がある。市民ができることではなく、市がやらなければいけないこととして記載してほしい。

（委員）市内には日和山中心に魅力的な場所が多いが、もう一つ起爆剤がほしい。臨港線があるので、人が乗れるようにできないか。町を見ながら港に行けることは大変な魅力だと思う。

⇒ 臨港線を活用したまちづくりについては、先進例もあり、御提案をいただいている方もいるが、様々なハードルもあるので、総合計画に記載できるかどうかは検討させていただきたい。

(委員) 2-6に「いかのまち酒田」という記載があるが、酒田は「いかのまち」なのか。いかだけでなく、酒田は全部がおいしい。

⇒ 庄内浜は、色々な種類の魚が少しずつとれるということで、その特徴を活かしたブランド化を推進していきたいと考えているが、酒田の水産業の牽引役となっているのは、水揚金額が一番多く、多くの県外船も酒田港に水揚げするいかであり、例えば大間のまぐろのように、酒田は水産が盛んな町であることを象徴する形として、いかを強調していきたい。

⇒ 京田西工業団地にいかの加工業者が立地したこともあり、「いかのまち酒田」にしていきたいという思いも込めている。

(委員) 園芸では、メロンもおいしいが、浜中でとれる小玉スイカもおいしい。ブランド化したらどうか。

(委員) ふるさと納税で人気がある。

(委員) メロンはエチレンガスを発生しスイカに影響を与えるため、メロンとスイカを一緒に送れないので、一緒に送れる方法を考えてはどうか。

以 上